

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	福岡県久留米市高良内町3919番地5		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果確定日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>「コスモピア高良内」は市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます。季節の花々を眺めゆったりと過ごす事ができます。桜の季節は公園に花見の方が多く訪れます</p> <p>利用者様は、ホームで生活されるなかで、近隣で提携医のつむらファミリークリニックの津村先生との連携により健康面では安心して過ごす事ができます。開設して18年を過ぎ勤続年数が長い経験豊富な介護スタッフが多く「自宅」のような雰囲気でも過ごして頂いています。また、個別支援の視点で一人一人の希望に添えるように配慮しています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「コスモピア高良内」は平成16年に開設。広い敷地に1ユニットずつ独立した造りで、それぞれ趣のあるたたずまいをなしている。公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が楽しめる。春には優しくもきりっと美しい桜が満開になる。提携医のDrとの連携により、健康面では安心して過ごされている。コロナ禍の中、Drと相談し1月にはインフルエンザ・コロナの接種を受け、予防対策を取り家族の訪問時に、短時間だが部屋で過ごしてもらった。12月には外泊・外出してもらった。個別支援の視点で一人ひとりの希望に添えるように配慮している。常に思いやりの心を持ち、福祉介護を通じ地域社会に信頼される事業所としての発展が大いに期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和し仕事に取り組む姿勢を日々確認している	「運営理念・方針・私たちの使命」を玄関・フロアに掲示してある。毎朝の朝礼時に全員で唱和し仕事に取り組む姿勢を確認している。理念は開設時に代表が作成した。ミーティング時に、管理者・リーダーを中心に皆で考え、「より添い」「尊敬」「明朗」「愛和」「喜働」「純情」「共に考え・共に生きる」などの理念を付け加えた。管理者と職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	(現在中止中)久留米市介護福祉サービス事業者協議会「よかよか介護ボランティア」の方が週1日ほど来訪される、その時に地域の情報などを頂いている、地域の中学生の職場体験学習を受け入れている	コロナ禍以前は「よかよか介護ボランティア」の訪問、中学生の職場体験学習も行われていた。今年は思うような活動ができなかったが、職員と共に近隣を散歩したり、市民農園で作業されている方と挨拶をしている。地域に高齢者が増えたことから包括が主体となり地域密着型事業所意見交換会で話し合いを行った。包括の計らいで公民館で管理者が「事業所紹介」の挨拶をした。	公民館で事業所紹介をされたとの事、今後事業所の取り組みなどを紹介し、公民館とのつながりを、持たれるようにしてみてもどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久留米市南包括支援センター主体の地域密着型サービス事業所間で、事業所で行方不明者が出た際の協力依頼体制のネットワークに参加している昨年は模擬訓練に3回参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催案内と会議次第、議事録を全家族に配布し、運営報告を行っている為、ご家族から内容について、質問を受けたり、アドバイスを頂く事もある	運営推進会議の開催案内・会議次第・議事録を家族・市担当者・包括などに送付し、事業所の状況・ヒヤリハットなどを報告している。地域包括支援センター主催の地域交流会議に積極的に参加し他の事業所の取り組みなどを聞き、参考にしている。家族からは訪問時又は電話などで、意見・要望・アドバイスなどをもらい、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、地域交流会議などでも顔を合わせる為、相談や質問をしたりしている包括支援センターや市の生活支援課から、入居者相談もある	包括支援センターからは入居の相談を受けることも多い。市職員の専門家による研修などに、電子申請サービスで申し込み参加する。地域交流会議などで顔をあわせるので相談・質問もしたりしている。日頃から実情などを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会でたびたび勉強して、理解を深めている、スタッフ皆、身体拘束を行う弊害について十分理解している、身体拘束をしないケアについて年に4回、身体拘束廃止委員会を開いて身体拘束をしないケアについて話し合いをしている	年4回身体拘束廃止委員会を行っている。ユニット毎にミーティングで不適切なケアが行われていないか、リーダーを中心に話し合いを行う。「虐待の目、チェックリスト」によるアンケートを定期的に職員間で行う。夜間センサーは家族の了解を得ている。スピーチロックについては気が付いたときに管理者が注意をしている。	

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、事業所内で不適切なケアが行われていないかどうか毎月のユニットごとのミーティングで確認している、アンケートも定期的に行い不適切なケアが行われていないか確認している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、実際利用されている方が2名いて月1回面会がある為に職員もよく理解している。成年後見制度を利用している方は以前はいたが、現在はいないが、勉強会で理解に努めている	日常生活自立支援事業は利用されている方が2名おり、月1回訪問されるので、職員も理解している。成年後見制度を利用されていた方は以前いたが、現在はいない。制度利用の希望がある時は管理者が導入部分を説明し実際の利用につなげる。パンフレットの用意もある。職員も一般的な知識は理解している。代表が資料を用意し内部研修を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時は、事前に書類を読んで来てもらい契約時十分な説明を行う、また疑問点を尋ねている、改定時は速やかに文書を渡し説明し同意を得ている、解約時は十分に話し合いを行い次の施設又は病院に繋げている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況は、運営推進会議の次第と議事録を全家族に郵送、又は、手渡ししており、面会時に意見要望を聞いたりしている、毎月担当のスタッフが家族に状況報告を兼ねた手紙を書き送っている	運営推進会議の議事録を送付し、事業所の状況・ヒヤリハットなどを報告している。訪問時に家族から意見・要望を聞いたり、電話で聞くこともある。それらの意見・要望は運営に反映させている。担当者は利用者を1~2名受け持ち、毎月家族に状況報告の手紙を送る。写真を送ることもある。	以前は年1回家族からのアンケートを取っていたとの事。今後機会を見つけ、アンケートについて検討されてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、アンケートや自己評価表などで意見を伝えてもらうようにしている、それを基に、代表者、管理者との個別面談を行う時もある、その都度話し合いをする事が多い	ミーティング時には意見を出し合っている。個別目標を立て自己評価については代表・管理者・リーダーとの個別面談が年2回あり、意見・要望・提案などを聞いてもらう。シフトの相談にのってもらう。物品など必要なものはすぐに対応してくれる。最近もドアノブの交換を行ってもらった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表、などを記入してもらい職場環境・条件の整備に努めている、代表者との個人面談を設けるなど意見を伝える機会がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、人柄ややる気を重視している年齢や性別による差別はしていない、職員は働かなかで、得意分野を生かして生き生きと働けるよう配置などに配慮している	年齢は幅広く、互いに能力・経験を活かし生き生きと勤務している。休憩時間・休憩スペースもある。調理はユニット間で主食・副食と分け得意な人のアドバイスを受け話し合いながら調理する。敬老の日は職員が得意な歌・踊りを披露する。勤務13年目で、准看護師の資格を持っている職員さんがおり、今後、看護師から見た看取りの話などをされてみる事を提案した。自己研鑽の為に今行って見ようと思うとの事。	

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、利用者様の尊厳については、認知症ケアの原点でもあり、繰り返し勉強会で学んでいる	毎朝の朝礼で職員全員で「職場の教養」の中に書かれている人権に対しての項目を話し合う。代表が研修資料を用意し内部研修に落とす。職員は利用者を1～2名担当しており、月1回利用者に対しての人権に関するカンファレンスを行なっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部研修にほぼ参加していない、が来年度は認知症介護実践者研修に2名以上参加する計画をしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域交流会議に積極的に参加し他の事業所の取り組みなどをきき、参考にしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、出来る限り、こちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望を聴いている又、できるだけ本人にホーム見学にきてもらっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、困り事、不安、要望を丁寧に聴いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合により、他のサービスを紹介したり、久留米市が発行している「高齢者支援パンフレット」をみてもらい説明したりしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事(家事)をしたり、マンツーマンで散歩したり、外気浴、外出を共にする時間を多く持つようにしている、できるだけ、本人の希望に添えるように支援している		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を伝えたり、ケアについて相談したり協力をお願いしたりしている、本人と家族の絆を大切に要望に答えている		

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、お店へ一緒に出かけたり、お寺へお参りに同行したり、知人や家族へ電話をかけた、年賀状を出したりするお手伝いをしている、知人、友人の訪問もある、在宅時のケアマネージャーに訪ねてきてもらう事もある	コロナ禍の中、外出は思うようにできていないが、家族の訪問・隣近所の方の訪問はあり、事務室と玄関で窓越しで行ってもらった。市から借りている農園で野菜を作っている方がトマト・大根などを届けてくれる。外気浴の時に馴染みの方と挨拶をする。家族と一緒に外出したり、外泊をされた方もいる。1月1日に外出した方には「おせち料理」を渡した。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士で食事が出来る様、食事の場所を配慮したり、レクリエーションなども座席などを配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方のお参りに行ったり、家族の様子を訪ねたりしている、退所後の家族がホームにみえる事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、「らしきシート」を記入してもらい、暮らし方、意向の把握に努めている	入居時は自宅・病院・小規模多機能などに管理者・リーダーが訪問する。入居時に事業所独自の「らしきノート」を記入してもらい、思いや暮らし方の希望・意向・家族との関係性などの把握に努める。思いを伝えることが難しい方には表情・仕草などから思いをくみ取るようにする。初回のアセスメントは計画作成者が行う。把握した情報は職員全員で共有し、一人ひとりの思い、暮らし方の希望・意向に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「らしきシート」にて、生活歴、馴染みの暮らし方生活環境、家族との関係性などの把握に努めている、入居時には、以前の情報を頂き事前にスタッフ皆で把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の希望は本人と職員皆で把握し希望を聞いている、心身状態、有する力について介護記録に記録しケアプラン作成時アセスメントしている、月1回のミーティングで個別カンファレンスを行い確認し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は各担当、ユニットで課題を吸い上げ看護師、医師、ケアマネ、ユニットリーダー、本人、家族と意見を出し合い作成している、月1回の個別カンファレンスでも意見を吸い上げている	介護計画は毎月のミーティングで個別カンファレンスを行い、担当者・職員などの意見を吸い上げ、本人・家族・必要な関係者とも話し合い、計画作成者が作成。プランに沿って日々の記録が行われている。モニタリングは毎月、アセスメントは半年に1回、又は変化のあった時に行なう。担当者会議では本人・家族の意向、満足度、目標達成状況をふまえ、主治医・関係者の意見を取り入れている。担当者介護の下部には検討内容・結論・残された課題などがかけられ状況が一目でわかる。	

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿を活用し日々の情報の共有に努めている月1回のミーティングにおいて担当スタッフがこれらの記録を確認し現状報告を行う事で介護計画の見直しに繋がっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により、外泊、外出もしてもらっている家族支援が困難な方を眼鏡修理や美容室、病院の入退院の手続き送迎など代行する事もある、市役所などの手続きの代行、買物など必要な事は引き受けている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーを利用して受診に行ったり、バスで家族と外出されたりしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医のつむらファミリークリニックの先生の支援のもと、家族へ、連絡、報告、相談は迅速に行っている、家族が遠方の方には、直接電話にて説明をして下さるか、往診時以外でも先生の方からホームに説明に向いて下さる事もある。専門医への紹介状も迅速に頂き迅速に受診につなげている	提携医のつむらファミリークリニックの医師の支援の下、安心して過ごしている。訪問診療時には事業所の看護師が立ち会う。遠方の家族には医師が直接電話にて説明してくれる。往診時以外でも事業所に説明に向いてくれる。緊急時には24時間連絡が可能である。他科受診時は医師から医師に報告があり、受診は家族が対応している。家族から受診状況を聞き取り、職員間で共有している。	
33		○看護職との協働 teikeiino	変化や気づきはその都度看護師につたえ、定期往診時に、介護職と共に医師へ伝えていく、又心配な時はオンコールで看護師が駆けつけて対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族と病院の連携室と連携をとり、情報提供を速やかに行っている、退院時カンファレンスにも参加する場合もある。病院連携室から入居相談も多い		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話をしている。医師から看取り時期についての方針を確認された時に家族に改めてお話ししている、方針が決まったら看取りプランを作成し、皆で共有し看取り体制をとっている、毎年看取りケア研修に参加している、津村先生の献身的な往診が皆の支えとなり、経験を積んでいる	入居時に看取り支援について話をしている。看取りの指針もある。昨年は2名様、今年は1名様の看取りを行った。看取りの時期については、医師から家族に改めて話をされ、方針を共有する。医師の往診時には、医師から丁寧な説明を受け、指示をもらうなど、職員の支えとなり経験を積んでいる。緊急時の連絡網もあり、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に1回は心肺蘇生法の実践研修を行っている。事故発生時の対応の勉強会(内部研修)も行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の総合避難訓練を行っている。夜間想定の実践も行っている	年2回火災時の避難訓練・通報装置の訓練などを行った。夜間想定の実践も行った。避難場所は特別養護老人ホーム・小学校になっている。代表が防災管理者の資格を持っている。備蓄としては米・炊き込みご飯などがある。	今後、地域での防災訓練に参加したり、事業所での防災訓練に地域の方に参加してもらいたいと思う
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守るケアについて、繰り返し勉強を行っている。丁寧な言葉遣いを皆で心がけている。	年1回はプライバシー保護の取り組みについて代表が内部研修を行い、折にふれ勉強会も行っている。言葉遣いに気を配り、気が付いた時には管理者が注意をしている。写真使用の同意書ももらっている。本人が思いや希望などを表した時には、その都度希望を聞き支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度希望を聞いて選択してもらっている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の希望を本人、家族に聞いてできるだけ、自由に過ごしていただけるように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んで着てもらっている。散髪は、2ヶ月に一回ホームでできるが、家族といきつけの美容室に行かれる方もいる。希望の美容室にお連れする事もある		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、希望を聞きながら、職員が作成している。下ごしらえ、片付けも一緒に行っている。サンドイッチ作り、おはぎ作りでは、毎回喜んで参加されている	献立は利用者に好みを聞き二週間に1回献立を作成する。麺類・パンが食べたいなどの要望があり二週間に1回は献立に入れる。食材の買い物は管理者と職員が週2回行く。野菜の配達も週1回ある。調理の得意な職員がおり、合わせ酢などを作り置きしている。敬老の日・誕生日、おせち弁当なども手作りで、彩の良い心のこもった食事が提供されている。利用者と職員と一緒にサンドイッチ・おはぎなどを作った。ささがきごぼうやしの根切りなども一緒に行った。	

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談し、制限が必要な方については食事量、栄養、水分量の個別対応、状態把握をしている、食習慣など家族、本人から聞いて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科より、希望者は口腔ケアを受けている、指導のもと毎食後職員が個別にケアを行う、又歯科医師に直接相談している。食事前に「お口の体操」を皆で行い、誤嚥性肺炎の予防をしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している、各個人の排泄パターンを、排泄チェック表に記載して皆で共有し把握している	個々の排泄チェック表にて時間帯・回数などを把握している。ミーティング時に話し合い、声かけをすることで、パッド交換の回数が減った。夜間は歩行が困難で転倒のリスクが高く、夜間はおむつを使用している方もいる。一人ひとりの力・排泄のパターン・習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事量、水分量を把握し散歩や体操を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日と時間帯は事業所側で決めているが、入浴を楽しめるように本人の希望を聞いて一人で入りたい人は一人で、手伝いをしてほしくない人はさりげなく脱衣所で待機するなど個別に対応している、同性介助を希望の方にも応じている	入浴時間は昼過ぎから夕方まで、冬は週2回、夏は週3回個浴である。一人での入浴を希望される方もおり、脱衣所でさりげなく待機している。入浴時はコミュニケーション・健康管理の場として大事にしている。皮膚疾患が見つかった時は、写真に撮り医師に送り、すぐに医師のところ薬を取りに行く。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により休息、睡眠がとれるようにしている、夜間も希望の時間で就寝して頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導をうけており、直接薬剤師より、指導を受け各個人の薬について基礎疾患と合わせて理解している、症状の変化は其の都度看護師に伝え往診時に的確に伝えている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物、買い物、食器の片付け)、散歩、外出などを個別に行っている、役割を持って自発的に行う方もいる		

R5.2自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は希望を聞いて周りの公園と一緒に歩いている、毎日の日課の方もいる。また希望者は家族といつでも一緒に外出、外泊して頂いている。	希望を聞いて、隣の桜公園に散歩に行く。毎日日課にしている方もいる。秋には銀杏の葉が色づく。市民農園では、馴染みの人と挨拶をすることもある。事業所周りは、静かな穏やかな環境にあり、外気浴や散歩が楽しめる。近隣の石橋文化センターのバラ園にもいった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事で安心される事は理解しており、職員皆共有して認識している、買物を頼まれる時も快く引き受けている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で、電話をしたり、年賀状を書いたりされるお手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような壁紙の飾りつけや、花を飾ったりしている、音楽やテレビなどの音は好まれない方には迷惑とならない様に音量や時間が長くならないように配慮している	ユニットにより造りが若干異なり「すすらん」は天井が高く開放的で採光もよい。「たんぼぼ」は床が木目調で優しい雰囲気がある。2ユニットとも、ホールを中心に部屋が配置され、全体がよく見渡せる。飾りつけは2ユニットそれぞれに特色が出ている。モダンな色合いの飾り物は、得意な職員が作製していた。建物回りも自然に彩られ、季節の野菜の実りを見たり、事業所の庭から、落ちるオレンジ色の夕陽を見ながら、穏やかな一日を感じている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人や2~3人で掛けられるソファをとるところに置き、時には、職員がそこで1対1で下肢のマッサージを行ったり、ゆっくり心配事の相談を聴いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具や寝具など自宅から持ってきてもらい、家族の写真を飾って居心地よい空間づくりをしている、テレビや仏壇など個々の過ごし方の希望が反映されている	居室にはベッド・カーテン・エアコンなどが設備されている。使い慣れたテーブル・タンスなどを持参したり、家族の写真に囲まれ、穏やかな気持ちで過ごしている。居室は広めで、清潔感にあふれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、手すりなど利用して移動したり、立ち上がりやすいように、ベッドの高さなど調節している		